

主な出来事

【内政】

- 学生向け奨学金支給基準の変更に伴う学生らの抗議活動
- ボンゴ大統領、ンゴゲ・ベカレ首相と面会

【外政】

- ンゴゲ・ベカレ首相とルコワントル仏統合参謀総長ら一行との協議
- 中国による外交関係樹立45周年記念関連行事の開催

【経済】

- フランスでのガボンへの投資関連シンポジウムの開催
- 高収入連帯税法案の閣議承認
- 2019年の経済成長率は3.1%の見通し
- 昨年末の債務残高5.3兆セーファに上る

【内政】

1 閣議の開催

先月29日、ボンゴ大統領は閣議を開催し、学生向け奨学金支給基準（19歳上限及びバカロレアの点数を20点満点中12点以上）等を変更した。（2日付UN）

2 野党「相続と近代性（RHM）」の党名変更

7日、RHMは党名を「祖国と現代性のための連合（Rassemblement pour la Patrie et la Modernité: RPM）」に変更した。（8日付UN）

3 学生向け奨学金支給基準の変更に伴う学生らの抗議活動

8日から10日にかけて、数千人に及ぶ高校生等による抗議活動が首都リーブルビルを中心にガボン主要都市で行われた。10日、政府は同抗議活動をなだめるために、新たな命令があるまでガボン全土における学校の授業の停止を決定した。その後、メンガ・メソネ国民教育大臣は、本件に関する奨学金改革は本年中には適用しないこと及び18日にガボン全土の学校における授業の再開を発表した。（11日付GA及び18日付UN）

4 新たな共和国のための連合（CNR）による会合の開催

10日、CNRは、国民連合（UN）、祖国と現代性のための連合（RPM）等とともに会合を開催した。CNR代表は、あらゆるガボンの政党は、現在の状況から抜け出すための道筋を見出さなければならない等と主張した。（12日付UN）

5 技術・職業バカロレア取得者向け奨学金受給年齢を27歳に設定

政府は、11日に開催した省庁間会議において、技術・職業バカロレア取得者向け奨学金の受給年齢を27歳とすることを決定した。（12日付UN）

6 ブクビ国民議会議長、ンゴゲ・ベカレ首相に学生向け奨学金新基準の適用延期を要請

ブクギ国民議会議長は、ンゴゲ・ベカレ首相に対し学生向け奨学金の新基準の適用延期を要請した。(14日付GMD)。

7 ンゴゲ・ベカレ首相と組合・市民社会代表者との会談

23日、ンゴゲ・ベカレ首相は、組合・市民社会代表者との会談を行い、調和のとれた発展のために、政府が取り組む様々な改革に協力するよう求めた。(24日付UN)

8 本年最初の上院通常会期における本会議の開催

25日、上院は、本年最初の通常会期における本会議が開催された。その中で、司法裁判機構の効率的な機能の保証、法治国家の強化、各種委員会の再構成等に関する4法案の審議及び採択が行われた。(26日付GMT, 26日付UN)

9 新民主主義(DN)による選挙関連プラットフォーム「2023収斂」等のイニシアティブの決定

27日から28日にかけてDNは結党3周年を記念した会合を開催し、選挙関連プラットフォーム「2023収斂」等のイニシアティブを決定した。(29日付UN)

10 ボンゴ大統領、ンゴゲ・ベカレ首相と面会

29日、ボンゴ大統領はンゴゲ・ベカレ首相と面会し、ここ数ヶ月政府が取り組む諸改革について協議した。ガボン政府は、歳出管理を目的とした財政健全化を目指す改革にここ数ヶ月取り組んでいる。(30日付UN)

【外政】

1 サル・セネガル大統領就任式へのンゴゲ・ベカレ首相の出席

2日、ンゴゲ・ベカレ首相はボンゴ大統領の代理として、サル・セネガル大統領就任式に出席した。(4日付UN)

2 ミレブ・オブッソン上院議長のトーゴ訪問

3日、ミレブ・オブッソン上院議長は、トーゴ国民議会からの招待を受け、アフリカ・カリブ・大洋州(ACP)・EUの議会による評価ミッションの一環で、ロメを訪問した。(10日付UN)

3 ンゴゲ・ベカレ首相とルコワントル仏統合参謀総長ら一行との協議

11日、ンゴゲ・ベカレ首相は、ルコワントル仏統合参謀総長ら一行との実務協議を行った。両者はガボン・フランスのパートナー関係の強化、及びとりわけ、中央アフリカに交替で配属予定のガボン軍の装備品に関するプロジェクトの具体化の検討で一致した。(12日付UN)

4 スペイン哨戒艇「Serviola」のリーブルビル訪問

スペイン哨戒艇「Serviola」がリーブルビル訪問し、ガボン海軍とともに、海上安全保障、医療援助等の共同訓練や研修等を行った。(17日付GA)

5 中国による外交関係樹立45周年記念関連行事の開催

18日から20日にかけて、リーブルビルにおいてガボン・中国外交関係樹立45周年記念の一環で複数のイベントが行われた。18日には、ガボン・プルミエ(国营放送)等

において、夜8時のニュース後にドキュメンタリーフィルムが放送された。19日には、ラディソン・ブルホテルのリーブルビルサロンにおいて、45年のガボン・中国協力関係を振り返る写真展及び「ガボン・中国、45周年の友好・協力関係：総括と展望」というタイトルの会議が開催された。20日には、同関連行事を締めくくる「スポーツの日」が行われた。(18日付UN等)

【経済】

1 フランスでのガボンへの投資関連シンポジウムの開催

3月29日、「ガボン、多角化を追い求める中部アフリカ市場」とのテーマの投資関連シンポジウムが、ビジネス・フランス及び駐フランス・ガボン大使館の共催でフランスのルクセンブルグ宮殿で開催された。同シンポジウムには、フランスの200以上の投資家が参加した。(2日付UN)

2 高収入連帯税法案の閣議承認

3月29日、閣議は、高収入連帯税 (la contribution de solidarité sur les hauts revenus) 法案を承認した。同税は、国家予算から給与を受けており、65万セーファ以上の月収を受給している公務員に適用される見込み。(2日付UN)

3 希少木材ケヴァジンゴ (Kevazingo) 等の開発を禁止する法案の閣議提出

2日、マパング森林・環境大臣は、オジゴ (Ozigo), モアビ (Moabi) 及びケヴァジンゴ等の木材の開発を禁止する法案を閣議に提出すると発言した。(2日付UN)

4 35の石油ブロック、間もなく競売へ

ガボンは、石油危機を脱することを目的に35の石油ブロックを競売にかける準備を進めている。(6日付GI, 9日付UN)

5 グッド・ガバナンスのための自由な組織ネットワーク (ROLBG), ンジョレ (Ndjolé) 金鉱脈における不透明な開発を告発

9日、ンパガROLBG (Reseau des organisations libres pour la bonne gouvernance) 代表は、モアイヤン・オグエ州のンジョレ金鉱脈における Alpha Centauri Mining SA 社による不正かつ不透明な開発、金鉱脈付近の河川の大規模な汚染、エコシステムの破壊等を告発した。(9日付GA)

6 アフリカ開発銀行、職業訓練校改修等へ約600億セーファ拠出

アフリカ開発銀行は、職業訓練校15校の改修のために、ガボン政府に約600億セーファを拠出した。(10日付GI)

7 財務行政改革に関する会議の開催

10日、ンコゲ・ベカレ首相は予算・会計大臣や国税、税関、国庫及び予算総局といった財務関連の責任者を集め、経済再生に向けた諸方策の現状確認を行った。(11日付UN)

8 2019年の経済成長率3.1%の見通し

12日、IMFが公表したサブサハラ・アフリカの経済見通しに関するレポートによると、2019年のガボンの経済成長率は、昨年より1.2%と比して上昇し、3.1%にな

る見込みとのこと。(12日付GA)

9 農業セクター開発に関する新戦略の発表

10日、マガンガ・ムサヴ農業・畜産・食料大臣は、農業セクター開発に関する新戦略を発表した。同戦略は、現在1年間に4,500億セーファを要している食料の輸入量の50%減、対象地域における調和のとれた社会・経済発展の促進、地方における若者の失業対策等を目的としている。(12日付UN)

10 昨年末時点の債務利息が2,110億セーファ以上

昨年末時点の債務残高が2,110億セーファ以上に膨れ上がったことが明らかになった。(16日付GMT)

11 中部アフリカ諸国銀行、対ガボン政府に450億セーファの借款を拠出

19日、中部アフリカ諸国銀行は、ガボンにおける1,000棟の社会住宅建設のために450億セーファの借款を拠出することを承認した。(20日付GMT)

12 昨年末の債務残高5.3兆セーファに上る

昨年末の債務残高は、昨年比9.4%増の5.3兆セーファに上った。(24日付GMT)

13 IMFミッションのガボン訪問

23日、IMFミッションが、2019年第1四半期におけるガボンの経済プログラムの実施状況を確認するために、ガボンを訪問した。同ミッション長は、財政健全化及び経済再建を目指す各種改革の実施に満足を示した。(25日付UN)

14 昨年のマグネシウム生産高が過去最高を記録

昨年のマグネシウム生産高は、過去最高の生産高を記録した Comilog 社の好調な業績等により、前年比6.8%増の530万トン記録し、過去最高となった。(26日付UN)

15 2018年の石油生産高が前年比8.2%減を記録

2018年のガボンの石油生産高は、石油供給量の減産のためにOPECが定める1日9000バレルという生産量の遵守などの理由により、前年比8.2%減の7,040万バレルとなった。(26日付UN)

16 オラム社、2022年までにパーム油の生産量を4倍にする見通し

オラム・パーム・ガボン社は、2022年までにパーム油の生産量を4倍にする見通しであることが明らかになった(28日付GMT)

出典:PR(大統領府公式HP),UN(ユニオン紙),GM(ガボン・マタン紙),GN(ガボン・ニュース電子版ニュース),AFP,GA(Gabonactu.com),GR(ガボン・レビュー電子版ニュース),LG(ル・ガボン電子版ニュース),GE(ガボン・エコ電子版ニュース),AFP(フランス通信社),GL(ガボンリーブル電子版ニュース),AFI(アフリカ・エネルギー・インテリジェンス),LP(LOUP 紙),EN(エコ・ノール紙),GMT(ガボンメディアタイム),GI(ガボンインフォズ)